

校友会 史跡クラブ 行程表

日程	5月21日(火)	《雨天決行》
活動場所	千住宿	
集合場所	東武東上線池袋駅南口改札前	
集合時間	9時30分(時間厳守)	
費用概算	交通費：¥432(IC) 入館料¥100	
行程概要	(午前) Jr 池袋 9:40 ~ Jr 日暮里 9:52 (JR 山手線) Jr 日暮里 9:57 ~ Jr 南千住 10:02 (JR 常磐線) 南千住駅前 ~ 小塚原刑場跡・回向院 ~ 素戔雄神社 荒川ふるさと文化館 ~ 千住大橋 ~ 橋戸稲荷神社 (昼食) 足立市場内店舗 (午後) 勝専寺 ~ 宿場通り商店街 ~ 横山家住宅・絵馬屋 安養院 ~ 長円寺 ~ 北千住 Jr 北千住 16:04 ~ Jr 日暮里 16:09 (JR 常磐線) Jr 日暮里 16:15 ~ Jr 池袋 16:26 (JR 山手線) 16:30 池袋解散	

● 千住宿

千住宿は、現在の足立区南部から荒川区北部に形成された日光道中（一般的には日光街道、宇都宮までは奥州道中と重複）の1番目の宿場で江戸四宿の一つ（品川宿・板橋宿・内藤新宿）。千住の名称の由来は、勝専寺の寺伝によると嘉暦2年（1327）に新井図書政次なるものが、荒川で漁をしていて網に千手観音像がかかり、それをお祀りしたことによるとされている。他説に足利義政の愛妾千寿の出生地、また千葉氏が住んでいた処等がある。

千住は古くから荒川（現在の隅田川）北岸の交通の要所で、文禄3年（1594）に千住大橋が架けられ慶長2年（1597）に宿駅として指定された。宿として初めは現在の北千住側だけであったが、橋の南側へ宿場が伸びて、天保14年（1843）には旅籠屋55軒、宿内の家数2370・人数9000人余で、本陣・脇本陣が各1軒あった。南側の宿を中心に食売（めしうり）・飯盛女を置く店が増え（公許150人）、遊里としても賑わった。近郊農村と江戸市中を繋ぐ流通拠点でもあり青物市場（やっちゃば）も出来（千住の葱は有名）、米問屋も多くあった。千住大橋の近くには、橋戸河岸（千住河岸）が造られ、川越からの新河岸川舟運による江戸市中への物資の中継地点でもあった。当時の船頭たちが「千住節」で「千住女郎衆は碇か綱か上り下りの舟とめる」と唄っている。また、宿場の南側の外れには慶安4年（1651）に、品川鈴ヶ森刑場と共に小塚原刑場が設けられた。

松尾芭蕉は、元禄2年（1689）に深川の芭蕉庵を出発し門人らに千住まで送られ、彼らと別れる際に「行く春や鳥啼き魚の目は泪」を詠み、奥の細道の矢立の初めとしたとされている。

※ 持ち物等 歩き易い靴・健康保険証・雨具・カメラ・飲料・スイカ/パスモ
連絡先 丸田純一(携帯：080-5870-1210)